

入選

小さな親切って何だろう

徳島県 城東中学校 二年

戸田 創太

今年の夏休みに、家族で北海道へ旅行にいったときのことです。北海道は海外かと思うほど、きこえてくる言葉は英語や中国語、韓国語ばかりで、インバウンドの影響で海外の人が多く訪れていることがわかります。

熱気球に乗っていたとき、先に乗っていた韓国人の二組の夫婦に英語で話しかけられました。妹がデジカメで撮影した自分たちの写真が欲しい、というのです。母が英語で答えています。文法もめちゃくちゃで、単語を並べただけの英語です。でも、相手の韓国人にはしっかり伝わっていました。

アプリを利用して、互いに写真の交換ができました。僕は母に、

「めちゃくちゃな英語で、恥ずかしくないのか。」と聞きました。すると母は、

「相手は韓国語が母国語で、英語は第二言語。お母さんも英語は第二言語で同じ。相手の英語だって文法もめちゃくちゃだけど、お互い通じて写真の交換ができた。」

と、答えました。

母の“なんとかなる精神”もあるのでしょうか。この状況で英語だからと逃げる日本人が多い中、母は堪能でない英語を笑顔で話し、相手に通じていました。

そしてその日の夜、今度は温泉で上海の小学校で先生をしているという中国人と話をした、ということです。中国人は、ホテルに備え付けられている洗濯機の表記が日本語だけで、英語表記が無いことから「使い方がわからない」と困っていたそうです。

周りのだれもが見て見ぬふりをして、素通りしていたことに気づいた母は、おせっかいなことに、

“May I help you?” と、声をかけました。中国人に使い方を教え、自分がわからないことはホテルのフロントに電話して教えてもらって、相手に伝えました。一見、見る人によればおせっかいな行動です。でも僕は、そんな母の行動を小さな親切ではないか、と考えました。

「小さな親切、大きなお世話」

なんて言葉もありますが、母の行動はおせっかいでもなんでもありません。困っている人がいるから素直に助けただけで、そのやりとりが英語であっただけです。

街でも、困っている人がいても見て見ぬふりをして通り過ぎていく人がたくさんいます。僕は母のように、困っている人がいれば助けられるのだろうか、と自問しました。きっと、通り過ぎていく一人だと思えます。

相手の命を救ったりできなくても、困っている人に声をかけるだけで、相手にとっては救われる一言になることを母の行動を見て学んだ気がします。僕も積極的にはいかないですが、困っている人がいれば知り合いではなくても声をかけてみようと思います。

小さな親切とは、本当に身近にあってすぐに実践できることだと思いました。